



和歌山市 景観まちあるき

～ 第 1 回 城下町の痕跡を訪ねる～

平成 23 年 9 月 17 日 (土)

主催：和歌山市 協力：NPO 法人市民の力わかやま

プログラム・講師紹介・写真募集について

本日のプログラム

- 13:30 西の丸広場に集合
講師紹介、景観まちあるきのレクチャー
- 14:00 まちあるき開始
吹上御門 一の橋 岡口門・東堀 三年坂・高石垣
扇の芝（堂形の射場） 追廻門 医学館 湊橋・昌平河岸
寄合橋（学習館） 京橋（西の店）
- 16:30 京橋に到着
アンケートにご記入いただき、解散
行程や交通事情等により、若干時間が前後することもあります。

講師紹介

額田雅裕氏

（和歌山市文化振興課副課長、「城下町の風景～カラーでよむ紀伊国名所図会」監修）

1985年より和歌山市立博物館学芸員、主任学芸員を経て、2011年4月より和歌山市教育委員会生涯学習部文化振興課副課長を務める。歴史地理学・地形環境学が専門。

「わかやま絵本の会」の芝田浩子さんと一緒に、ニュース和歌山から発行した「城下町の風景～カラーでよむ紀伊国名所図会」の編集に携わる。

写真募集・絵はがきづくり

- ・参加者の方にはデジカメ等を持参していただき、当日道中の景観を撮り、その中でベストショット一点に「タイトル」「コメント」を付けて提出していただきます。
- ・提出頂いた写真は、和歌山県景観ポータルサイト「きのくに風景讃歌」に掲載するとともに
(<http://www.kinokuni-sanka.jp/>)、12月3日(土)に予定している景観シンポジウムで展示します。
- ・提出頂いた写真をもとに絵はがきセットとして制作し、景観シンポジウムで参加者に配布します。

< 提出方法 > 提出期限：10/7（金）まで

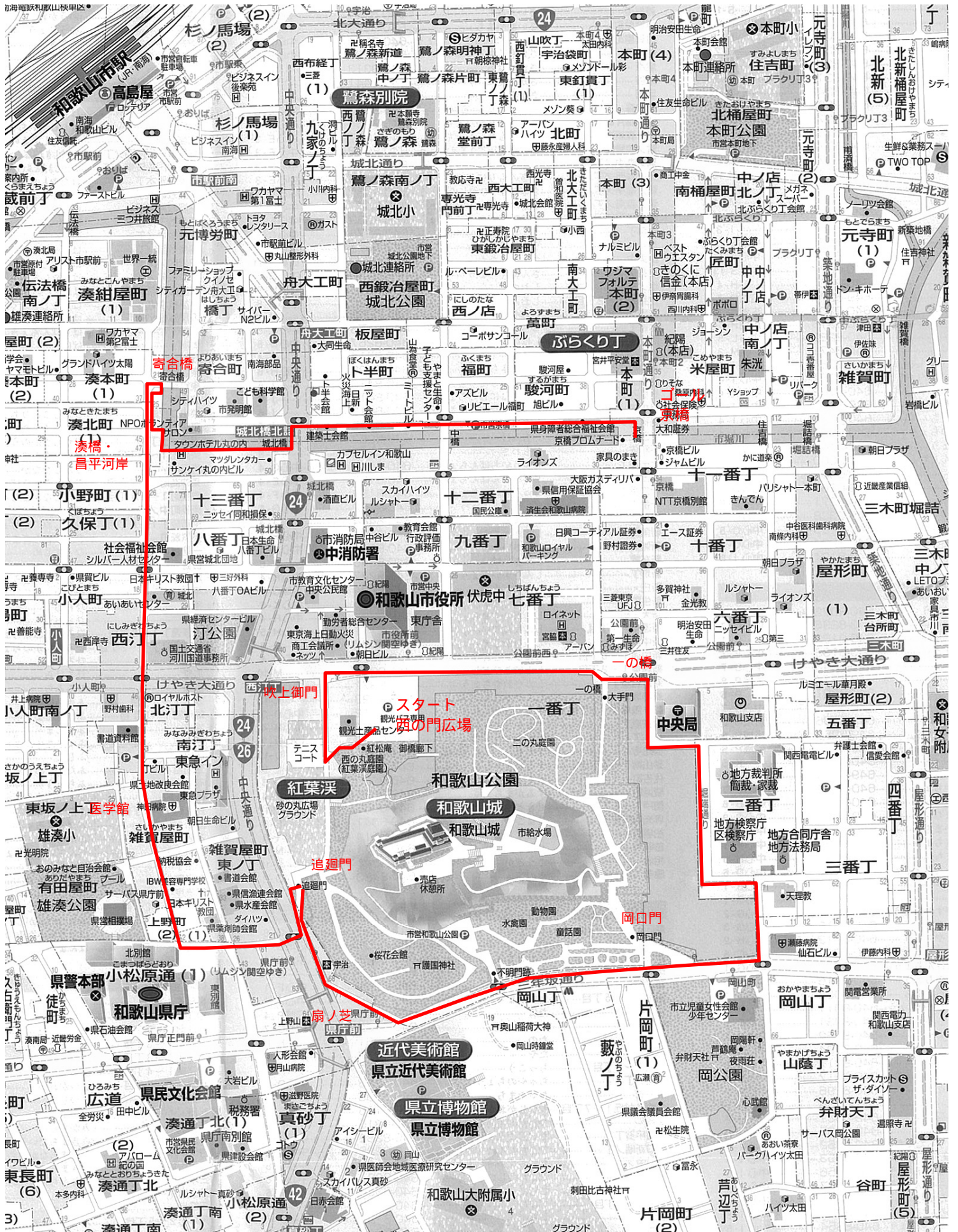
デジカメの場合： 市都市整備課 toshiseibi@city.wakayama.lg.jp 宛にメールで送付
もしくはUSBメモリなどで持参

フィルムの場合： 六つ切りサイズに出力したものを市都市整備課に持参



和歌山県景観ポータルサイト「きのくに風景讃歌」はNPO法人市民の力わかやまによって運営されています

景観まちあるきルートマップ 気になるポイントなどがあれば、付箋にメモしておきましょう

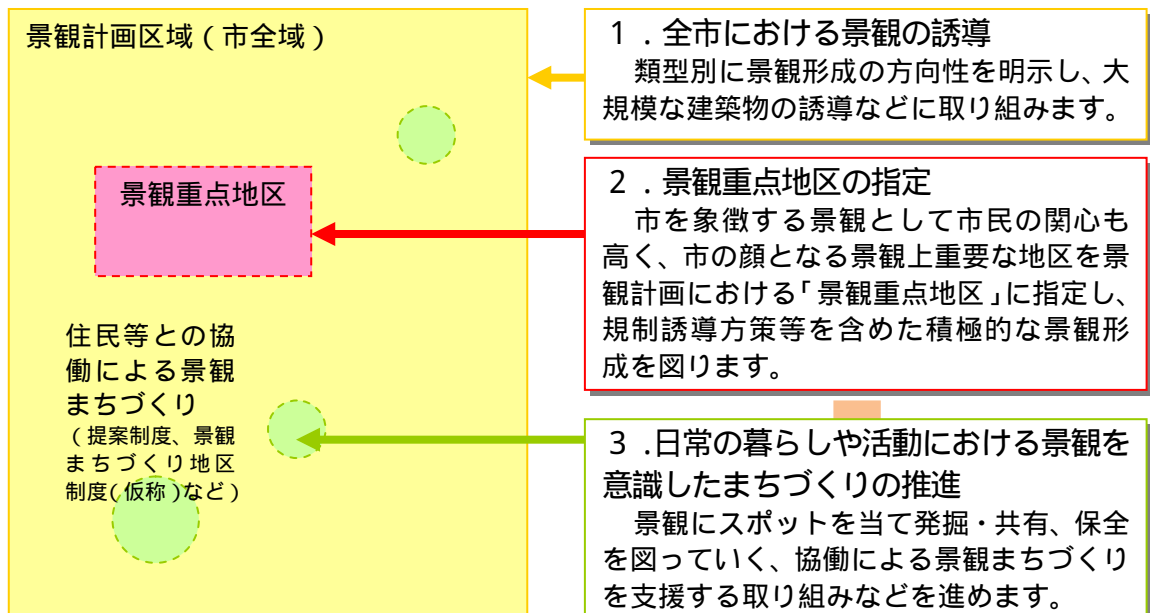


和歌山城周辺景観重点地区指定の取り組み

和歌山市では、良好な景観づくりを進めていくため、景観法に基づく景観条例の制定・景観計画の策定を行いました。

景観計画では、「紀の川・紀伊水道の豊かな自然、古墳・万葉・城下町の歴史・文化を礎とした美しく風格のある和歌山市の景観づくり」を理念として位置づけ、今後良好な景観づくりに向けて様々な取り組みを進めていくことを明記しました。

景観計画の中で「和歌山城周辺景観重点地区」を指定し、重点的に景観づくりを進めていくこととしました。

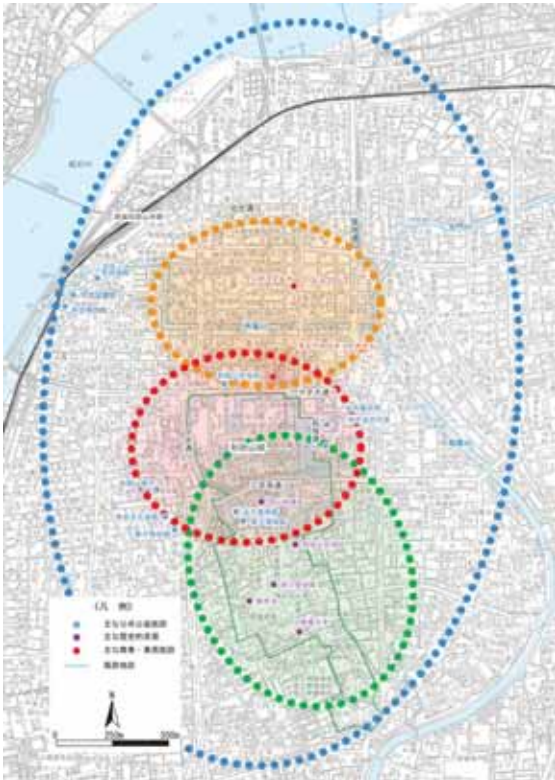


< 和歌山城周辺景観重点地区 >



けやき大通り、中央通り、三年坂通り、堀端通りの4つの通りに囲まれ、城やお堀、石垣や城内の緑などが一体的に眺望かつ体感できる範囲（42.8ha）を「和歌山城周辺景観重点地区」として指定し、より細やかな景観形成の考え方を設定
地区独自の景観形成基準を設定し、規制誘導を行う（高さ・位置、壁面位置の後退、眺望点からの眺望への配慮等）
規制誘導以外の取組みも推進

旧城下町エリアの景観形成の
理念・目標・方針



旧城下町エリア全体
ゾーン A：和歌山城を中心とする4つの通り沿いを含むゾーン
ゾーン B：和歌山城の南側に広がる風致地区の緑を中心としたゾーン
ゾーン C：和歌山城の北側に広がる商店街等を中心としたゾーン

理念

城下町としての都市形成を根幹とする和歌山市の中心市街地を見つめ直し、わがまち・和歌山に対する誇りと愛着を醸成する。普遍的な景観価値を備えつつ、時代とともに変容を遂げる、新たな城下町都市・和歌山としての景観形成を目指す。

目標

<旧城下町エリア全体>
目標：城下町都市・和歌山の景観の領域性に対する認識を高め、それを体現する「城のあるまち・和歌山」の景観の創造

<ゾーン A>
目標：城のシンボル性と武家屋敷地の名残としての大型敷地の特性、戦後の都市発展の中で築かれた都市の資産を活かした、本市の中心としてふさわしい風格ある景観形成

<ゾーン B>
目標：城から連なる緑と点在する歴史的資源に着目し、緑と歴史が息づく、やすらぎを感じることのできる景観形成

<ゾーン C>
目標：町人地としてのまちなみの連続性や市堀川等の資源を活かした界限性の高い通りの景観形成

ゾーン A は、城を十分に認識でき、城とお堀が一体となった開放感あふれる貴重な空間が形成されており、市民や観光客が訪れる本市の顔となる地区
けやき大通り、中央通り、三年坂通り、堀端通りの4つの通りに囲まれ、城やお堀、石垣や城内の緑などが一体的に眺望かつ体感できる範囲(42.8ha)を「和歌山城周辺景観重点地区」として指定し、より詳細な景観形成の考え方を設定します。

和歌山城周辺景観重点地区の景観形成の方針

<地区全体の方針>

【方針 1】
和歌山城に面する4つの通りが創る道路景観の魅力を向上させる

【方針 2】
天守閣からの眺望に加え、天守閣やお堀を望むことができる良好なビューポイント(眺望点)からの眺望景観を確保する

【方針 3】
ランドマークである和歌山城を中心としたネットワークづくり等の空間整備によりシンボル性を高める

<通りごとの方針>



(けやき大通り) 城と広がりのある堀が一体となった開放性のある空間を意識し、本市のメインストリートとしてふさわしいにぎわいと風格をもったまちなみ景観を形成する



(堀端通り) 城と広がりのある堀が一体となった開放性のある空間を意識し、シビックゾーンとしてふさわしいゆとりとうるおいのあるまちなみ景観を形成する



(中央通り) 市の幹線道路であり、城内から連なる緑や石垣、広幅員の道路空間を活かした、シンボリックな道路景観を形成する



(三年坂通り) 緩やかな坂の勾配を活かし、堀や石垣との関係性に配慮した見通しの良い、静かなたたずまいを感じることができるまちなみ景観を形成する

景観まちあるきのヒント

1. 普段とはちがった視点で、自分のまちをあるいてみよう

例えば、遠くから友人や親戚が訪ねてきて「あなたの住んでいるまちを案内してほしい」と言われたときに、楽しいまち案内が出来る自信がありますか？

自分のまちは、知っているようで案外知らないものです。普段とはちがった視点でまちを歩いて、いろんな発見をしてみませんか。

旅に出たときには目にするいろんなまちなみ・風景が新鮮に映り、思わず写真におさめていくようなことはありませんか。そうした気分でまちを歩くことで、普段気づかない発見が得られます。

2. 最近では、まちあるきが盛んになってきています

最近ではまちあるきをテーマにしたイベントが盛んに行われるようになってきました（例えば、長崎さるく博、大阪まちあるきCUPなど）。

普段のまちであってもテーマ・切り口が面白ければ立派な集客イベントになります。

景観まちあるきは、普段とは違った視点で自分たちのまちを歩いてみて、再発見していくことであり、普段何気ないまちでも面白い視点が見つかる可能性があります。

水都大阪のすべてが旅になる
36コース 2011.10.1-31

大阪まちあるきCUP 2011

AREA MAP 36 Course

大阪まちあるきCUPは、大阪のほんまものの面白さを知る「ちいさな旅」のコラボレーションです。

01 日本橋から淀川まで
10/1(水) 09:00-13:00

02 10/1(水) 13:00-17:00

03 船から眺める美しい大船場ツアー
10/1(水) 2:00-15:00

04 船屋スナック街へ旅立ち
10/4(土) 17:00-21:00

05 たましはな一歩
10/1(水) 10:00-15:00

06 淀川と空の橋のまもり
10/4(土) 17:00-21:00

大阪まちあるきCUP
水都大阪プログラムの一環で、全36コース
グランプリなど賞も用意し、参加者も楽しめる
しかけがふんだん

3. 和歌山城の景観のどんなところが素晴らしいのか？

市民の皆さんに聞いてみました

市民の皆さんにアンケート調査を実施すると、和歌山城は上位に挙げられており、市民の皆さんが大切にしているものだと分かりました。しかし、城そのものや、城を眺める風景、城（天守閣）からの風景はたくさん挙げていただきましたが、城の周りを挙げる人は少なかったです。

< アンケート結果より >

通り越しに見る城郭や緑、お堀
けやき大通り、三年坂通りなどの通り越しに望む、
和歌山城の城郭やこんもりとした緑、お堀について
評価する意見が多く出されています。
天守閣から一望できる市内の景色
和歌山城の天守閣から市内や遠くに望む紀伊水道・
和泉山地を一望できる景色について評価する意見が
多く出されています。
その他
城の桜の景色や、ライトアップの景色といった、季
節や時間によって変化を見せる城郭や緑の景色への
評価が挙げられています。



和歌山城のまわりにも地名だったり、町割だったり、言い伝えだったり、様々なところで城下町であった痕跡は残されています。額田さんの解説をじっくり聞いて、和歌山が城下町であったことをしっかりと感じ取っていただきたいと思います。

4. 景観 = 「景」 + 「観」、特に「観」が大切

景観は「景」と「観」、つまり「見られる景」と「観る人の思い」が重なって表現されるものです。そのため、写真など眼に映るイメージとともに、「それがなぜ良いのか」「どんなことが伝えたいのか」といったメッセージが重要です。

今回歩く和歌山城周辺に対して、「皆さんがどんな思いを持たれるのか」がポイントなので、額田氏の解説を聞きつつ、アンテナを張って歩いて頂き、これぞというところを写真に収めていただきたいと思います。

また、なにか気になった点があれば、お渡しした付箋・地図に書き込めるようにしているので、積極的に書き込んで頂ければと思います。



画：岩瀬比津「吹上御門の丸」



画：岩瀬比津「大手御門の丸」

吹上御門・西の丸 (8 頁, 絵図 17)

西外堀 明治 6 年 (1873) 商工会議所前
道路建設のため埋立て (表 1)
西の丸橋 (吹上橋) 平成 19 年度発掘調査
橋台石垣検出
吹上御門・吹上大御門
御蔵 文政 3 年 (1820) 設置
北・東・南が西外堀で囲まれる

一の橋 (8 頁, 絵図 4)

大手御門 明治 42 年 (1907) 自然倒壊
昭和 57 年 (1982) 再建
二の丸 表御殿 明治 18 年大阪城へ移築
紀州御殿：昭和 22 年焼失
北堀 堀幅 41m 29m 市電・道路拡幅
月見櫓・物見櫓・駿河櫓
大手道 一の橋 京橋：両側に重臣 (安藤・水野・三浦) 屋敷
待合所 渡辺主水屋敷地東側
駕籠・槍・馬・井戸

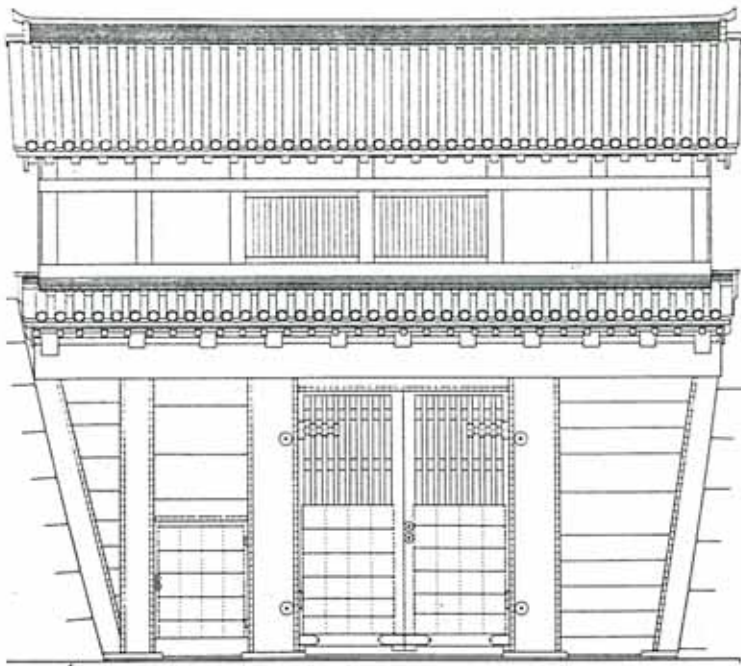
表 1 外堀の埋立て過程 北外堀(市堀川)を除いた外堀は、明治 6 年(1873)、当時の県庁裏通り(現商工会議所前)の埋立てを皮切りに、昭和 15 年(1940)ごろまでにすべて埋立てられた。

堀川名	場所等	幅	長さ	時期その他	廃橋
東外堀	屋形川・堀詰川	15 m	970 m		
	岡山丁~屋形町 3 丁目		東西 225 m	大正 3~5 年 (1911~13) 1 月 27 日竣工	(弁天橋)
	屋形町 3 丁目 8 番地~同 1 丁目 8 番地		470 m	昭和 6 年 (1931) 11 月から埋立て	(城東橋)・東中橋・(屋形橋)
	屋形町 3 丁目 8 番地~5 番地先		146 m	昭和 8 年 (1933) 3 月竣成	三木橋
	三木橋~堀川		129 m	昭和 12 年 (1937) 7 月~9 月に埋立て	
西外堀	西ノ丸川	15~18 m	500 m		
	県庁正面に汀橋架橋			明治 5 年 (1872) 県庁、朝比奈屋敷跡に移転	
	県庁裏通り道路建設のため一部埋立て			明治 6 年 (1873) 吹上御門付近	吹上口橋
	八番丁南部埋立て			昭和 2 年 (1927) 吹上寺坂切下げの土砂	
	商工会議所			昭和 3 年 (1928) 払い下げ、昭和 6 年 (1931) 3 月 25 日落成	
	勘定門付近埋立て			昭和 9 年 (1934)	
	消防屯所 (旧中消防署)			昭和 9 年 (1934) 5 月落成	
汀橋付近埋立て			昭和 11 年 (1936)		
	西ノ丸川埋立て竣成			昭和 15 年 (1940) ころ (詳細不明)	湊橋
南外堀	新堀川	15~35 m	700m		
	西端から 170 m 埋立て工事中止 井原橋まで		600m	大正 3 年 (1911) 1 月埋立て開始 大正 9 年 3 月~12 年 10 月埋立て完了、水道坂・車坂切下げの土砂、上水道ろ過池工事の土砂で埋立て	中橋・井原橋



岡口門・東堀（8頁, 絵図6）

岡口門（重文）櫓門形式 切妻造り
 浅野時代 大手門 搦手門
 土塀 日干し煉瓦積み 塗壁
 延長 40m 12か所に鉄砲狭間
 砂岩の一枚岩をくりぬき
 東堀 約 75m 唯一当時のままの堀幅
 土塁・広瀬御門・石塁：高さ約 3m
 百間長屋・待合所
 重臣屋敷（岡野・戸田・佐野・加納）
 広瀬御門 三の丸への南東入口
 東外堀 雁木 土塁



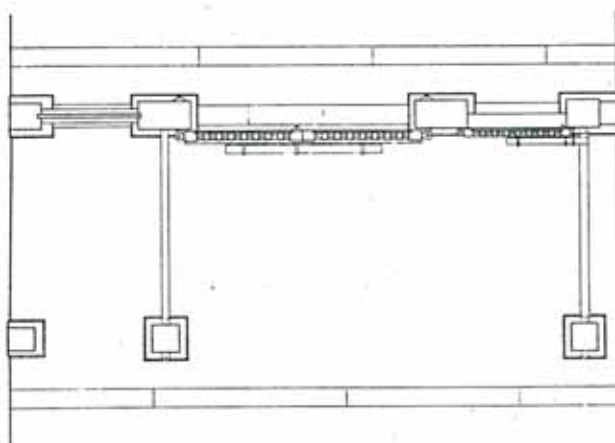
岡口門（重要文化財）

両側に御蔵(左)と櫓(右)、その間に櫓門
 正面 3 間
 出入口（向って右側）

中 2 間に連子窓

柱の角および扉には鉄板を張る
 向かって左にくぐり戸

昭和 32 年 国の重要文化財に指定
 昭和 35 年 修理竣工



内堀 東堀 最も原形をとどめている

堀幅 約 75m

水深は 1.8m

底が平らな箱堀

底部は粘土で固めている



岡山の根上り松群「高石垣の階段」

三年坂・高石垣 (8頁, 絵図13)

三年坂 実際は狭く急な坂道

「此所にて転びしものは、三年の内に必ず死ぬ」という俗信あり

岡山の時鐘堂 (県指定文化財)

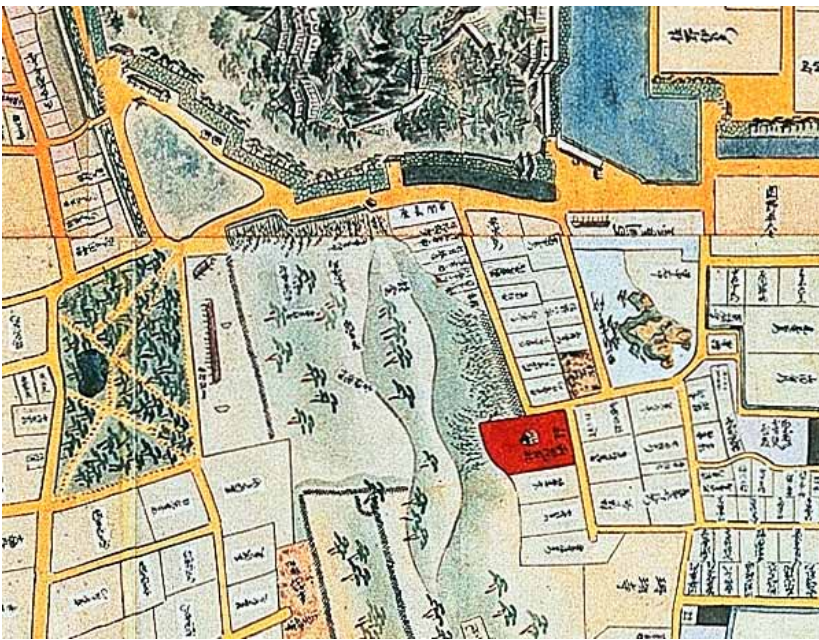
正徳2年(1712)建立

一刻ごとに城下に時を知らせた。

梵鐘は片桐勝元方の大筒、97cm

2人の鐘楼守

大正2年3月末日 時報廃止



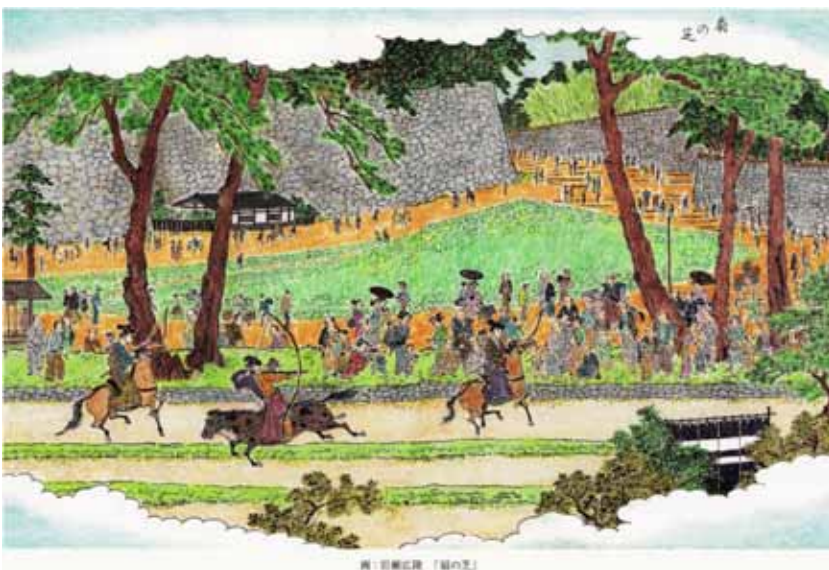
南堀 大正14年(1925)不潔かつ不体裁のため上水道ろ過池の土砂で埋立て

天妃山: 現在の岡公園 緑色片岩・矢板跡
百間長屋 御作事所で働く職人の宿舎
御作事所 藩の建築・土木関係の事務所
城や石垣の修理

岡山の根上り松群 (県指定文化財)

吹上砂丘

安政2年(1855)和歌山城下町絵図



岡山の芝「扇の芝」

扇の芝・堂形の射場 (8頁, 絵図15)

扇の芝 奥: 和歌山城南西隅の芝が植えられた三角形の土地

馬場 手前: 藩士の馬術練習場
南北約350m



堂形射場 (8頁, 絵図9)

京都の三十三間堂を模して屋根をかけた弓矢の練習場

東西約 30m

南北約 180m

西側は松原・眼鏡池、背景には和歌道を挟んで久野丹波守上屋敷

東側(県庁)に門、左側ほど高い石垣(税務署北側)

画：岩崎正隆「京都の城」



追廻門 (高麗門形式 ; 8頁, 絵図4)

馬を走らせることによる

昭和 60 年 3 月に解体修理完了

二の丸の藩主御座の間から裏鬼門

にあたるため門全体を赤く塗る

和歌道の出発点？

庶民の往来

画：岩崎正隆「追廻し口近江米の町」

(休憩 : 5 分)



医学館跡 (8頁, 絵図12)

医学館は寛政 4 年 (1792) 最初には本町

3 丁目に創設された後、雑賀屋町に

移転。

医学校かつ藩立病院の役割

東西 35m・南北 30m、敷地、300 坪余。

画：岩崎正隆「医学館」



図2 城下町和歌山の範囲と大名

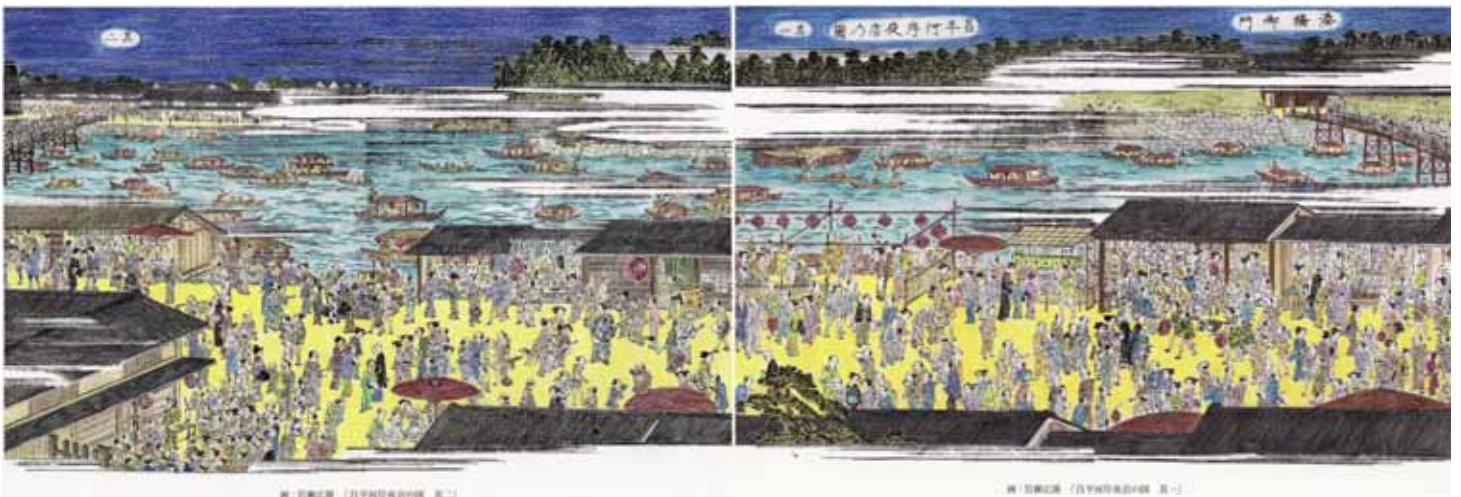
湊橋・昌平河岸 (8頁, 絵図3)

湊橋跡・湊橋御門跡

湊橋は、三の丸の北西隅から湊へ通じる橋で、現在の十三番丁と小野町の間、西の丸川に架かっていた。三の丸側に湊橋御門と土塁があって、家老久野家(伊勢田丸城主)の預り同心が警備に当たっていた。昭和15年頃に西の丸川の埋立てが完了し、湊橋はなくなった。

西の丸川(西外堀)

市堀川から南へ吹上門まで延びる外堀を西の丸川という。幅約15~18m、長さ約500mで、市堀川と内郭とを連絡していた。西の丸川は昭和初年から埋め立てられ、昭和6年(1931)に商工会議所、昭和9年に消防屯所(旧中消防署)が完成した。



昌平河岸 孔子の生誕地 魯の昌平郷にちなむ?(東京:湯島聖堂 昌平坂学問所)

内川沿いの寄合橋西詰から南は湊片原と呼ばれていたが、文化年間に昌平河岸と改められた。商家が建ち並び、夏には夜店も出て夕涼みの人々で賑わった。



学習館・寄合橋 (8頁, 絵図10・16)

学習館 紀州藩の藩校

正徳3年(1713)に5代藩主吉宗が湊御屋敷跡に「湊講館」(講堂)を創設した。その後、一時衰退したが、寛政3年(1791)に10代藩主治宝が再興し、藩士及びその子弟の教育のために「学習館」と名付けた。主に儒学・史書を講じた。

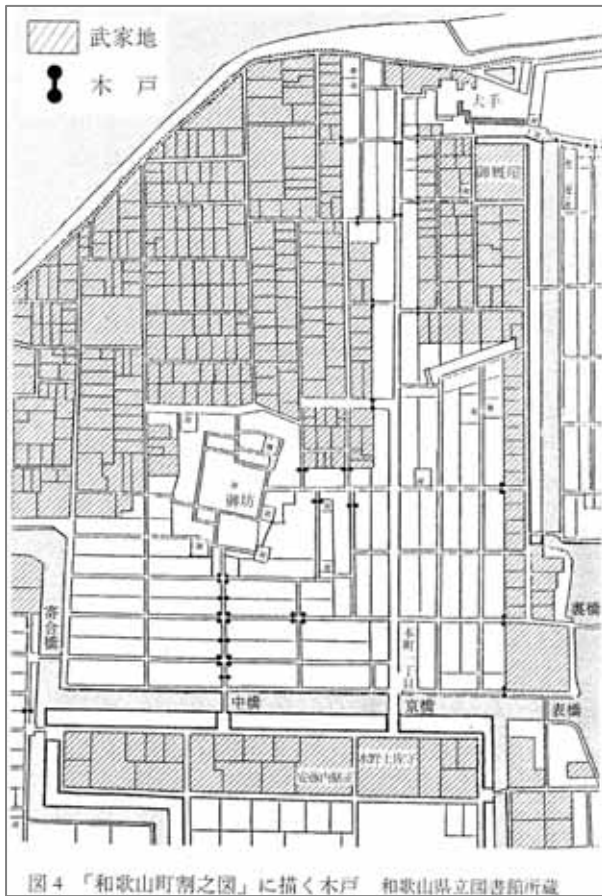
東西35m・南北50m 約530坪の敷地。

慶応2年(1866) 吹上の岡山へ移転 「学習館 文武場」



寄合橋：寄合町から湊本町に架かる橋。
 長さ 20 間 1 尺 3 寸 (約 40m)・幅 3 間 5 寸
 (約 6m) 東詰に火の見櫓

寄合町：四丁町の一つ。寄合橋から東には
 寄合町・ト半町・福町・駿河町からなる
 四丁町があった。



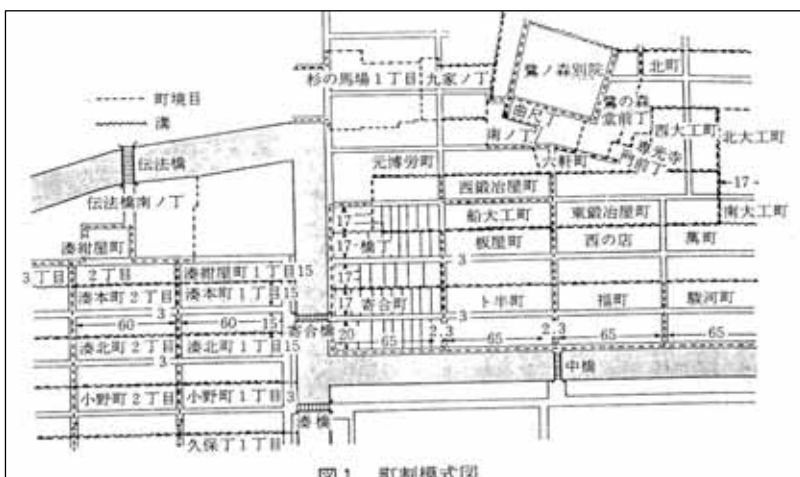
四丁町：大店が建ち並ぶ町。四丁町には大きな商家が軒を並べていた。その中央を東西に走る道は、東の本町へ続き、城下町のメインストリートであった。

駿河町・福町：東西 65 町、南北：北側 17 間・南側 21 間
 道幅 3 間

ト半町 貝塚願泉寺のト半住職所持の屋敷があった。

橋丁：「この町の西に橋架かりし故に名付くという」(『紀伊続風土記』)

木戸：町と町の間を防犯・防火のために設けられた。
 通常、暮六つから明六つまで閉められた。



城下町プランの基準線

湊の町割：東西 60 間 (約 118m)・南北 30 間
 (約 59m) の長方形街区、路線式町割

一軒：間口 5 間・奥行 15 間の土地区画
 (約 87 坪)

道幅 3 間 (湊本町は 4 間)

表2 同職集住の商人町

安政2年和歌山城下町絵図の町名	おおよそ大名	現在の町名	現在の地区
南・北牛町	湊	南・北牛町	雄湊
北新博労町	北新町	北新博労町	本町
毛皮屋町	新町	毛皮屋町	大新
米屋町	内町	米屋町	本町
新魚町	内町	新魚町	本町
新八百屋町	新町	新八百屋丁	大新
中之店(南・北・中ノ丁)	内町	中ノ店(南・北・中ノ丁)	城北
西之店	内町	西ノ店	城北
東・西旅籠町	内町	東・西旅籠町	本町
広瀬八百屋町	広瀬	広瀬通丁3丁目	広瀬
元博労町	内町	元博労町	城北
萬町	内町	万町	城北

表3 同職集住の職人町

安政2年和歌山城下町絵図の町名	おおよそ大名	現在の町名	現在の地区
網屋町	湊	網屋町	雄湊
板屋町	内町	板屋町	城北
南・北桶屋町	内町	南・北桶屋町	本町
東・西鍛冶屋町	内町	東・西鍛冶屋町	城北
東・西瓦町	新町	田中町3～5丁目	新南
北新桶屋町	北新町	北新桶屋町	本町
北新金屋町	北新町	北新金屋町	本町
北新元金屋町	北新町	北新元金屋町	本町
分銅丁	新町	北ノ新地分銅丁	大新
木挽町	新町	木挽丁	大新
紺屋町(1～3丁目)	湊	湊紺屋町(1～3丁目)	雄湊
南・北・中細工町	広瀬	南・北細工町	広瀬
材木丁	湊	材木丁	雄湊
新大工町	新町	新大工町	大新
匠町	内町	匠町	本町
畳屋町	内町	畳屋町	本町
鍋屋町	内町	鍋屋町	本町
西紺屋町(1～2丁目)	広瀬	西紺屋町(1～2丁目)	広瀬
西・南・北大工町	内町	西・南・北大工町	本町
東紺屋町	広瀬	東紺屋町	広瀬
吹屋町	新町	吹屋丁(1～5丁目)	新南
舟大工町	内町	舟大工町	城北
桶屋町	吹上	湊桶屋町	吹上
南材木丁(1～3丁目)	新町	南材木丁(1～3丁目)	大新

城下町では、初め同じ職種の商人や職人たちが、一つの待ちに集まって住んでいました。

このことに由来する町名が、城下町絵図では商人町が16町、職人町が31町あり、現在もそのほとんどの町にその名が残っています。



京橋・西の店(8頁, 絵図1・28)

西ノ店 毎朝 魚市が開かれた。

松江のアサリ、吹上沖の初鯉

万町 野菜市・魚市

東西65間 南側・北側各17間

納屋河岸 1～4丁目 片町

物資の荷揚げ場、毎日米のせり市

(北)中橋：現在より約50m西側

北中橋御門(冠木門)三浦の預り同心

50人が警備

中橋筋 幅2間

市堀川(内川・伝法川):紀ノ川の支流にして湊伝法より岐して(中略)鈴丸川(和歌川)に合流す(中略)浅野家のとき新に穿し川なり。故に鈴丸川合流の所を堀詰という」(『紀伊続風土記』) 浅野期に掘削された人工河川堀詰橋 雑賀町と三木町の間に架かる橋。鈴丸川と合流する所を堀詰という(『紀伊続風土記』)

地形的には、土入川 和歌川へ続く旧河道

文政13年(1830)・慶應3年(1867)などに、内川の浚渫

三方出合：鈴丸川(大門川)・北新町川(真田堀)・伝法川(内川)の三川合流地帯

江戸時代は西から東へ流れていた？



大手筋(本町通り)幅 4 間：都市計画の基準
 ・京橋から北へ延びる道。城下町計画の南北の基準線。両側に町場が形成された。
 ・南端の本町 1 丁目から 8 丁目までまっすぐで、東に折れて 9 丁目があり、本町御門が設けられていた。参勤交代時に必ず通った。
 ・明治 41 年(1908)・大正 6 年(1917)西側へ拡張 現在幅約 15m
 土塁：高さ約 7m・幅約 33m
 市堀川(内川)北外堀
 火の見櫓・番所・札場・(里程元標)



京橋御門(櫓門形式)城の正面入口
 安藤・水野の預り同心各 50 人が
 各 3 組に分かれて隔日交代で警備
 京橋：長さ約 33m・幅約 6m

「京橋北詰」秋香軒筆徳川斉順帰国行列図(和歌山県立博物館所蔵)天保 5 年(1844)



- ① 京橋御門の外
- ② 道廻門付近
- ③ 昌平河岸(橋片原)漆橋付近の夜景
- ④ 一ノ橋・大手御門付近
- ⑤ 新大工町 土井呉服店
- ⑥ 岡口・東堀
- ⑦ 車坂稲荷社
- ⑧ 本町御門の外
- ⑨ 堂形の射場
- ⑩ 学習館全国
- ⑪ 数子神社の祭日
- ⑫ 医学館
- ⑬ 高石垣の略図
- ⑭ 本町五丁目 新屋酒店
- ⑮ 福ノ芝
- ⑯ 寄合橋
- ⑰ 吹上御門辺の園
- ⑱ 鷺森御堂 西本願寺
- ⑲ 田中蜜柑市の園
- ⑳ 除夜日前宮へ櫻参の園
- ㉑ 檜橋(ひのきつばき)の園
- ㉒ 本町の新屋(あたらしや)酒店
- ㉓ 岡口御門辺の園
- ㉔ 和歌道より御城を望む園
- ㉕ 寺町
- ㉖ 神明社・万性寺/観留眺望
- ㉗ 志磨神社付近
- ㉘ 酒店魚市
- ㉙ 漆河口
- ㉚ 鈴丸橋・伊勢橋付近

今後の予定のご案内

第2回景観まちあるき 万葉の地和歌の浦を訪ねる

日程：11月12日(土) 13:00～

講師：中島暁子氏(和歌山市語り部クラブ)

景観まちづくりシンポジウム(仮称)

日程：12月3日(土) 14:00～(予定)

場所：和歌の浦アート・キューブ

第1回・2回のまちあるきのベストショットを展示するほか、景観絵はがきセットを作成、配布予定

<MEMO>